

道連ニュース

2015年11月号 No.113

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

北海道生活協同組合連合会加入のご挨拶

あさひかわ福祉生活協同組合 専務理事 遠藤元美

この度、北海道生活協同組合連合会に加入しました、あさひかわ福祉生活協同組合（代表理事 萩原信宏）です。今年5月16日に創立総会を開き、8月12日に認可を頂きました。まだ、組合員200人の恐らく日本一小さな生活協同組合かと思えます。生活者が主体となる福祉事業を行いたいと考えていたときに「協同出資・協同利用・協同運営」を柱とする生協との出会いは、衝撃の出会い・ぴったりのマッチングでした。いよいよ事業開始となり、ワクワクとした心持でスタートラインに立っています。

この3カ年の事業計画として、住み慣れた地域や長年暮らした我が家に出来る限り住まい続けたいと言う願いに応える生活支援ちょっと君・デイサービス・ヘルパー事業、人と人の繋がりが生まれ、自分らしい生活が出来る共同住宅建設（自立型と介護型）を行います。11月2日、最初の事業となるデイサービスM&M（定

員10人の小規模デイ）とヘルパーステーションMそして、介護保険外も対応でき、あらゆる世代から利用いただける「生活支援ちょっと君」をオープンしました。「自尊心が傷つけられるのは辛い」という声に、組合さんが企画し主体的に参加できる、我が家のようなデイサービスを目指しています。小規模デイサービスですが、ご町内に沢山使って頂き、往来の多い、笑い声が響きく町内の風景の一部として馴染んでいけるものにしたいと思います。間もなく、あさひかわ福祉生活協同組合の住宅1号に着手します。

地域の要求を掘り起こし、まちづくり運動として、住民と一緒にあって取り組めるものにしたいと思えます。

今後とも、皆様のご指導とご鞭撻を宜しくお願い致します。

生活クラブ

11月1日(日)、今年も札幌コンベンションセンターで「わくわくまつり」を開催しました。

生活クラブのまつりは、組合員でつくる実行委員会と各支部の組合員、そして生産者とともに作りあげています。様々に楽しい企画がある中でも、特に目玉は模擬店です。組合員と生産者がひとつのブースで消費材を語ろうと試行錯誤しながら進めています。複数の生産者の消費材×消費材でおいしさが何倍にもなるように工夫しています。平田牧場の三元豚を使った焼肉丼や、サツラク農協の低温殺菌牛乳をアレンジした



レンジャーと子どもたち

みるくやさんなど、来場された方もどれを食べようか迷ってしまうとの声が聞かれ、早々と完売になってしまふところも……

そして、生活クラブが行なっ

ている運動を伝える「くるとわかるコーナー」も人気！石けん運動のブースでは毛根診断、長崎平和行動の報告や食品添加物がよくわかる無果汁ドリンクづくりなど楽しくするためのになるコーナーとなりました。

今年のまつりは終わったばかりですが、次回はどんな楽しいことをしようかと考えています。「つくる手 食べる手 その手はひとつ」を合言葉にさらにパワーアップしていきます。

今年くることができなかつた方も、来年はぜひわくわくする時間をともに過ごしましょう！



環境委員会



支部飲食ブース

LPガス問題取り組み報告第2弾

先月号で、10月3日LPガス問題を考える会主催の学習会報告をしましたが、今回は第2弾として、その後の取り組み経過と、解ってきたことについてご報告いたします。

<取り組み経過>●10.06、日生協全国灯油・LPガス学習懇談会が開かれました。この会の参加者は、エネルギー庁・消費者庁・全国石油連盟、全国消団連、生協関係他50名でしたが、道生協連よりLPガスの取り組み報告を行ったところ参加者から、①ガスの問題は今回はじめて詳しくきいたのでも参考になりました。他団体との連携がすばらしいと思います。②LPガスの報告はデータをもとに説得力があった。③LPガス問題を考える会の取組、調査に感心しました。LPガス料金の適正化をはかる為には、ガス販売店だけではなく、建築会社、不動産屋、大家などにも指導していかなければならないと思う。などの感想がよせられました。

●10月3日の学習会に参加された、元道生協連事務局局長浅田さんからは、LPガス問題は、北海道の消費者運動にとって積年の課題であり是非この機会に是正したい、協力できることは協力します。頑張ってください。との感想がよせられました。

●道庁暮らし安全課との意見交換では、「誰もLPガスの現状について納得していないと思います。」との評価と、北海道消費生活条例の適用について研究が必要とお話を戴きました。●埼玉県消費生活アドバイザー協会より、日生協全国灯油・LPガス学習懇談会に参加したメンバーからLPガスパンフレットを紹介された、内容が解り易くとてもインパクトがあるので、学習会に使いたいの、20部送って欲しいとの要請があり、お送りしました。●10月17日、大学生協理事長会議でLPガス問題について報告したとこ

ろ、これまで知らなかったLPガス問題の現状を知ることが出来認識改めました。アパート斡旋事業で提供する情報にLPガス・灯油価格を加える必要がある。斡旋している、大家さんとの連携も必要と感想を戴きました。

<この間の取り組みを通じて解った事>●LPガス販売を巡る様々な「問題点」の消費者サイドからの指摘は、長期にわたって行われており、LPガス業界関係者と行政にとって周知の事実となっています。●知らされていない・知らない・自覚していないのは、大多数の消費者であり、消費者の知る権利と選択の自由を保障する（特に集合住宅）情報開示が不十分です。●なぜこうした状況が続いているのか①業界関係者は、全国に21000社の販売業者がある事とLPガス料金は自由料金である事を理由として、業界改革への意識が希薄な事、エネルギー自由化に対する危機意識の弱さ、更に組織改革への浄化作用の弱さを感じます。②行政の取り組みは、「販売指針」への指導やホームページなどでの情報公開指導を提唱していますが、到達点評価と対策・対策効果確認と次の対策、所謂PDCAを回す、行政指導とはなっていません。③また、これまでのLPガス問題での消費者サイドの取り組みも、調査に基づく組織的な取り組みとしては、不十分な状況でした。

<当面の取り組み計画>●2000部作成したLPガスパンフレットの普及と学習会の組織を全道で進めます。●経済産業局・道庁・LPガス協会への要請・懇談活動を、年末から年始にかけて推進する計画でいます。

引き続き、LPガス問題での協力をお願い致します。

◆ 北海道・東北地区行政・生協連絡会議報告 ◆

10月21日、2015年度北海道・東北地区行政連絡会議が青森県庁で33名の参加で開催されました。この連絡会議は、毎年、各県持ち回りで北海道・東北7県の联合会役員・行政（生協所管窓口）・日生協・厚生労働省の関係者が集まり、「行政と生協が進める地域づくりの現状と課題について」のテーマで交流を行っています。今年は会議の前に、コープあおもりと青森県生活協同組合が共同出資で建設（投資額9億円）した「あおもりセントラルキッチン」の施設見学をしました。この施設は、病院給食と配食を毎日3000食提供しています。

会議は、厚生労働省・消費生活協同組合業務室長の佐藤氏から「生協を取り巻く最近の情勢について」の基調報告の後、各県の行政・生協が進める地域づくり

について実践報告と交流を行いました。北海道からは、北海道環境生活部暮らし安全局消費者安全課の鶴ヶ崎主査の「生活協同組合コープさっぽろと北海道との協働について」・道連の山口から「コープさっぽろのCSRレポート」の報告を行いました。

次年度の連絡会議は、北海道で開催されます。開催に向けての日程の確認、運営の企画作りを早期に準備したいと思います

